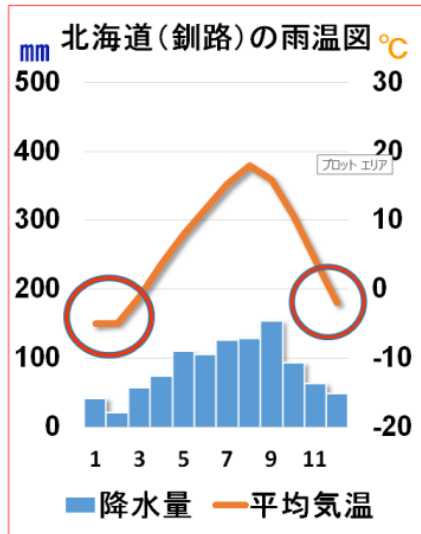


■ 北海道の気候



冷帯に属しているので

雨温図のポイント

冬の平均気温が低い
⇒0°C以下
年間の気温差が大きい

北海道は、冷帯(亜寒帯)となるため、気温と湿度が低く、温暖湿潤気候の特徴である「梅雨」がありません。また、高緯度に位置するため台風や熱帯性低気圧の影響を受けづらく、夏は冷涼で過ごしやすくなります。

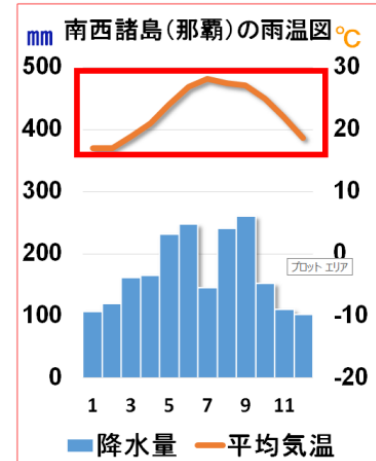
反面、冬の寒さは厳しく、内陸部では-20°C前後まで気温が下がることもあります。湿度が低いいため、冬の降雪量も実はそれほど多くありません。

埼玉県の日本文理記述で頻出する、「気候の特徴の説明」でのポイントは、1)全体的に降水量が少ない。2)その原因は「梅雨」がなく、「台風」の影響が少ないためである。ことを押さえておきましょう。

また、雨温図の識別をする際には、「1月の平均気温」に注目しましょう。冷帯に位置するため1月の平均気温が「0°Cを大きく下回る」ことも押さえておきましょう。

農業については、寒冷な気候ややせた土地のため、稲作にむきませんでした。しかしよそから土壌を持ってくる「客土」や寒冷に強い米の品種改良などにより、石狩平野を中心に米の生産も盛んになっています。十勝平野では野菜作りが盛んで広い農地を活かした大規模な経営が行われ、ジャガイモ、たまねぎ、ニンジンなど生産量全国1位の野菜もたくさんあります。その反面気温が低いいため、果物の栽培はそれほど多くはありません。

■南西諸島の気候



亜熱帯に属しているのも

雨温図のポイント

1年を通して、
年平均気温が高い。

【特徴】

さとうきび、パイナップル
さんご礁

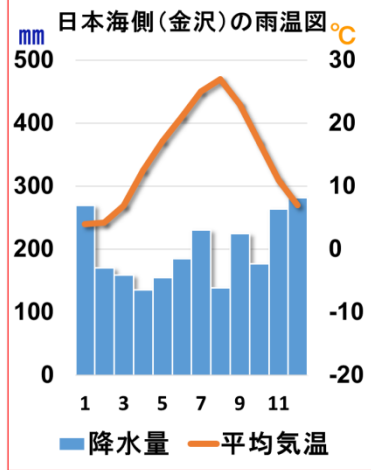
沖縄を含む南西諸島や、小笠原諸島などは亜熱帯と呼ばれ、一年中気温が高く、降水量が多い「南西諸島の気候」となります。海水も暖かいため、日本では他の地域にはない「さんご礁」が発達しています。

南西諸島の雨温図の特徴は、1)降水量が多い。2)「一年中」気温が高いことです。同じように降水量が多い「太平洋側の気候」よりも気温の折れ線グラフの変化が緩やかになります(冬でも平均気温が10°Cを越えます)。

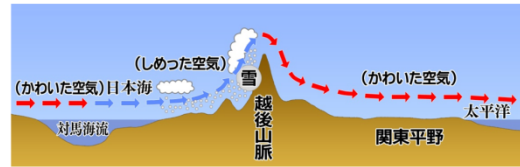
降水量が多い夏の時期は、梅雨や台風の影響を強く受けます。特に台風は豪雨とともに強風にも備える必要があるので「南西諸島の気候」の地域の家屋は石垣で囲んだり、屋根を低くしたり、屋根瓦をしっくい固めたりする工夫をしています。こちらも記述できるようにしておきましょう。

農業については、本来は稲作にむいた気候なのですが、現在は米の生産量は全国最下位です。要因としては、1)より収益の高いサトウキビやパイナップルの栽培が盛んになった。2)1945～1972 のアメリカ統治時代に安い米が流通し、作付けを変更していったなどがあげられます。

■ 日本海側の気候



冬は北西から吹く季節風が日本海を通るときに、大量の水蒸気を運び、雪や雨を降らせる。



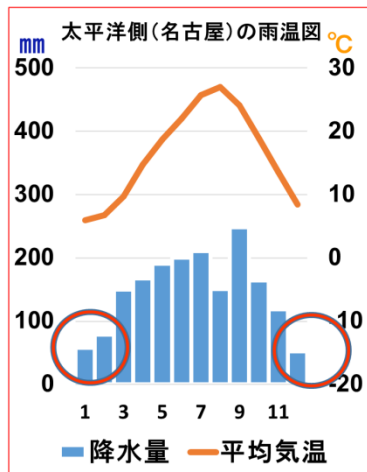
日本列島は中央の山脈を境目として太平洋側と日本海側に二分されます。日本海側の暖流の対馬海流が運ぶ大量の水蒸気を冬の季節風が運んでくるため、「冬」に大量の雨や雪が降ります。

日本海側に大量の雨や雪を降らせた風は山脈を越えるときには乾燥した風となるため、太平洋側では冬は乾燥し、晴れた天気が多くなります。日本海側では反対に、夏に太平洋から乾いた風が山脈を越えてくるため、夏に晴天が続きます。そのため、「日本海側の気候」の雨温図は1月や12月の降水量を示す棒グラフが中央の6～9月よりも高くなる特徴のあるグラフとなります。

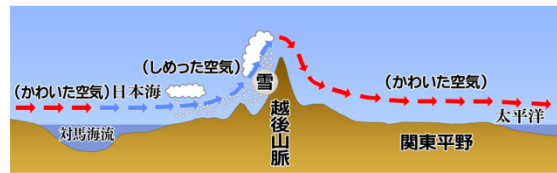
記述の際には「水蒸気を含んだ風が山脈にぶつかって」雨を降らせるというフレーズを覚えましょう。日本海側の気候だけでなく、瀬戸内の気候でも使用できる基本フレーズとなります。

農業については、冬が降雪で農作業が難しいため、日本海側の東北～北陸では「米の単作」地帯が多いです。夏の晴天が多いため米の生産量は多く、東北地方は「日本の穀倉地帯」とも呼ばれ、全国の4分の1を生産しています。また、日本海側であっても土地の特性を生かして山形県のサクランボ(おうとう)や洋なし、鳥取県の日本なしのように果樹栽培が盛んな地域もあります。

■太平洋側の気候



冬の天気の特徴



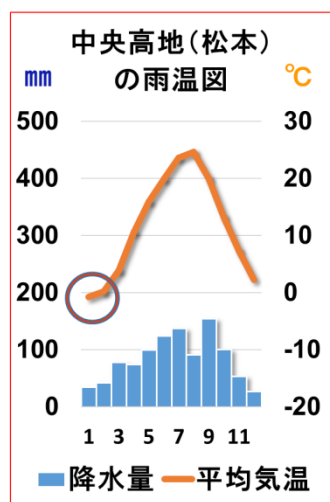
山脈を越えた乾燥した風が吹くので晴れの日が多い。

太平洋側の気候で、夏に降水量が 200 mmを超える月があるのは、梅雨や台風の影響です。南東からの夏の季節風が水蒸気を含んだ風を内陸まで運んできますが、中央の山脈にぶつかって多くの雨を降らせます。ですから太平洋の沿岸でない埼玉県も太平洋側の気候に属しています。そして冬は日本海側からの冷たい北西の季節風が吹いてくるため、冬は晴天が多く、乾燥するところもあります。群馬県などの「からっ風」は日本海側で雪を降らせた乾燥した風の吹きおろしをさした言葉です。埼玉県では過去に、冬の季節風を防ぐための防風林の配置を問う問題が出題されたこともあります。

関東や東海では年降水量は 1500 mmを超える程度ですが、南四国や紀伊半島南部などの豪雨地帯では 2000 mmを超えるところもあります。南西諸島の気候の雨温図と紛らわしい雨温図もあるので、記述のポイントとしては、1)「冬に晴れの日が多い」(1月や12月などの降水量が少ない)ことや、2)夏と冬の気温差が大きい(冬の気温が10°Cを下回る)ことなどで識別できるようにしておきましょう。

農業については、温暖な気候を生かした、宮崎県や高知県の「促成栽培」を覚えましょう。宮崎県はキュウリやピーマン、高知県はナスの生産が盛んです。また、群馬県は太平洋側の気候に属していますが、高冷地の嬬恋村を中心に抑制栽培が盛んなことも覚えておきましょう。

■ 中央高地の気候



中央高地は標高が高いので、

雨温図のポイント

**1月の気温が0°C未満。
降水量が少ない。**

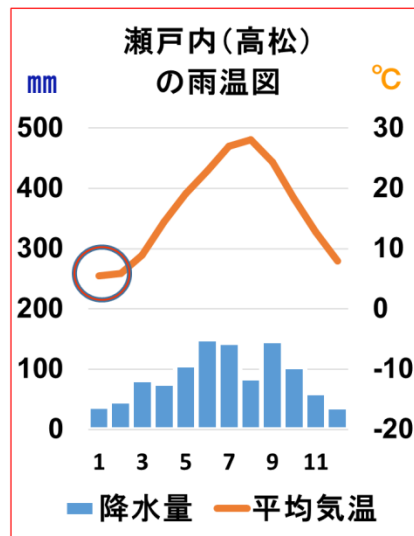
中央高地とは長野・岐阜・山梨などの、日本アルプス周辺の標高が高い山々に囲まれた地域です。標高が高いため年間を通して気温は低く、山に囲まれているため降水量も少なめです。

日本の気候区分の中で、年降水量が 1500 mmを下回るのが「北海道の気候」、「瀬戸内の気候」と「中央高地の気候」の三つです。これらの識別方法は「1月の平均気温」です。中央高地は前述のように標高が高いため、「1月の平均気温が0°C未満」となります。北海道具大しくは下回りませんが、気温が低いため一度降った雪が解けにくいので、降水量が低いわりにスキー場などのリゾートが多いことを憶えておきましょう。

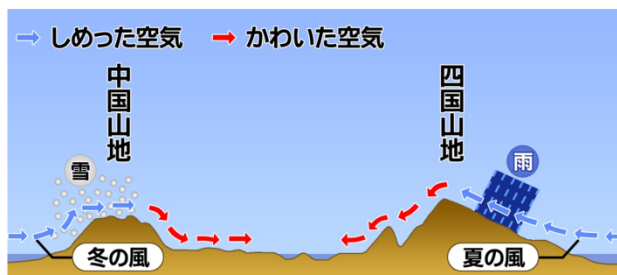
また、雨温図には表れませんが、中央高地の気候は高山気候と同じように「昼と夜の気温差が大きい」ことも覚えておきましょう。

農業については、寒冷な気候を生かした高原野菜の「抑制栽培」が盛んです。長野県の野辺山高原を中心に、白菜、レタス、セロリの生産が全国1位となっています。中央高地は平地が少なく扇状地が多いため果樹栽培も盛んです。山梨県はブドウと桃の生産量が全国1位ですし、長野県もリンゴやブドウの生産が盛んです。

■瀬戸内の気候と中央高地の気候



■瀬戸内の気候



瀬戸内の特徴

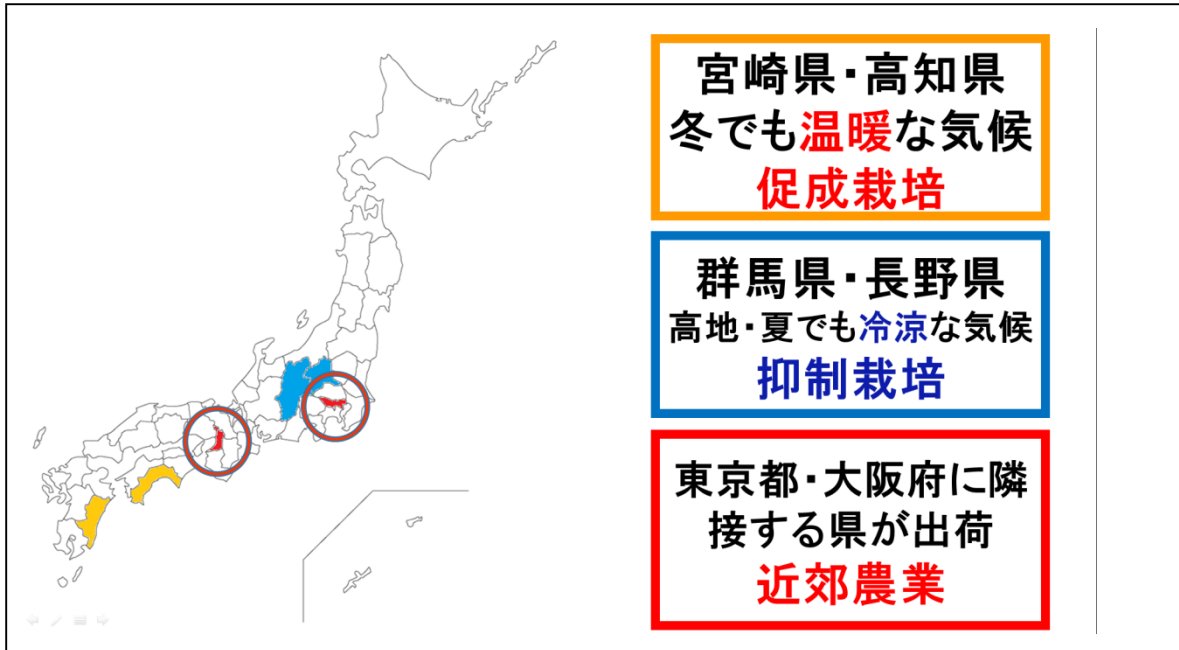
- ①干ばつ
- ②ため池

中国山地と四国山地にはさまれ、太平洋や日本海からの水蒸気が届きにくいいため、降水量が少ない。

瀬戸内の気候は、「中国山地と四国山地」にはさまれて季節風の影響を受けづらいので、降水量が少ない地域です。そのため、夏に干ばつが起こりやすく、農業用水を確保するために古くから「ため池」が造られてきました。ため池の技術は渡来人がもたらしたとされ、奈良時代の行基や平安時代初期の空海などもため池の造成にかかわっています。

年降水量は1000mmを越える程度で、北海道の気候や中央高地の気候と類似した雨温図になっています。識別方法としてはやはり、「1月の平均気温」で、瀬戸内の気候は「1月の気温が0°C以上」というのも覚えておきましょう。

農業については、このように瀬戸内は降水量が少ないため、稲作以外の農業が盛んです。例えば愛媛県はみかんやキウイなどの果樹栽培が、香川県は「讃岐うどん」が有名なように小麦の栽培が盛んです。



日本農業の特色を三つに分けました。まず、温かい地方の特色になります。宮崎県、高知県での促成栽培になります。もともと暖流の日本海流（黒潮）の影響もあり温暖な地域です。さらにビニールハウスなどの施設を使い他県よりも早く栽培し出荷します。その理由は、他県が出荷しない時期に出荷することで高い価格で売ることができるからです。出荷する農産物は、ナスやキュウリなどが有名です。また入試では問題文中にある語句に注意しましょう。「栽培方法」の場合は、「促成栽培」になります。「ビニールハウスなどの施設を使う農業」の名称であれば、「施設園芸農業」となります。

次に、中央高地で行われている農業の特色になります。長野県、群馬県での抑制栽培になります。日本アルプスの標高が高い地域で行います。夏の冷涼な気候を利用し農作物の成育を遅らせる方法です。その理由は他県が出荷しない時期に出荷することで高い価格で売ることができるからです。

さらに大都市で行われる近郊農業があります。大都市周辺の県が、人口の多い大都市に向け新鮮な農産物を売る方法です。その理由は、需要がある大都市に向け出荷することで利益を得ることです。関東地方であれば、東京都へ向け、千葉県や埼玉県などが新鮮な野菜を出荷しています。

■都道府県の特徴

工業生産額が高い県

- ①中京工業地帯 ⇒ 愛知県・三重県など
- ②京浜工業地帯 ⇒ 東京都・神奈川県など
- ③阪神工業地帯 ⇒ 大阪府・兵庫県など
- ④瀬戸内工業地域 ⇒ 広島県・岡山県など
- ⑤北関東工業地域 ⇒ 茨城県・栃木県など
- ⑥東海工業地域 ⇒ 静岡県

工業生産額が高い県を並べました。日本の工業地帯地域は、関東地方から九州地方までの沿海部に集中し太平洋ベルトとよばれます。①の中京工業地帯では、愛知県豊田での自動車が有名で機械類が中心となり、日本第1位の工業地帯になっています。②の京浜工業地帯は、神奈川県横浜での自動車が有名です。③の阪神工業地帯は、戦前は日本第1位の工業地帯で「東洋のマンチェスター」と呼ばれていました。現在も織物(軽工業)が盛んです。④の瀬戸内工業地域は中国四国地方にあり、コンビナートを形成し石油パイプラインがつながっています。広島の自動車産業が有名です。⑤の北関東工業地域は、工業団地を形成し発達しました。⑥の東海工業地域は、浜松の楽器・オートバイが有名です。

なるほど！農作物の生産地の特徴

	1位	2位	3位
米	新潟県	北海道	秋田県

米の生産の特徴

- ①水が豊かであること。広くて平らな土地であること。
- ②水はけのよい土地であること。
- ③昼と夜の気温差が大きいこと。
- ④寒い地域でも育てられる品種改良と栽培技術が向上したこと。

なるほど！農作物の生産地の特徴

	1位	2位	3位
きゅうり	宮崎県	群馬県	埼玉県
なす	高知県	熊本県	群馬県

促成栽培

黒潮が流れているため、冬でも温暖な気候を利用してビニルハウスなどの温室を利用して出荷時期を早める農業。

なるほど！農作物の生産地の特徴

	1位	2位	3位
キャベツ	群馬県	愛知県	千葉県
レタス	長野県	茨城県	群馬県

抑制栽培

夏でも涼しい気候を利用して、集荷時期を遅らせる農業。

なるほど！農作物の生産地の特徴

	1位	2位	3位
みかん	和歌山県	愛媛県	静岡県

みかんの生産の特徴

暖かい地域であること

- ①8月～10月の日照時間が多いこと。
- ②年間平均気温15℃以上あり、冬の最低気温が-5℃以下にならないこと。

なるほど！農作物の生産地の特徴

	1位	2位	3位
ぶどう	山梨県	長野県	山形県
もも	山梨県	福島県	長野県

ぶどう・ももの生産の特徴

- ①雨が少なく、乾燥していること。
- ②晴れが多く、日照時間が多いこと。
- ③昼と夜の気温差が大きいこと。

なるほど！農作物の生産地の特徴

	1位	2位	3位
りんご	青森県	長野県	岩手県

りんごの生産の特徴

- ①冷涼な気候であること。
- ②年間降水量が少ないこと。
- ③昼と夜の気温差が大きいこと。

なるほど！畜産が盛んな地域の特徴

	1位	2位	3位
乳牛	北海道	栃木県	岩手県
肉牛	北海道	鹿児島県	宮崎県

稲作や畑作などに適さない場所では、酪農などが行われている。

なるほど！畜産が盛んな地域の特徴

	1位	2位	3位
豚	鹿児島県	宮崎県	千葉県
にわとり (ブロイラー)	宮崎県	鹿児島県	岩手県

九州南部はシラス台地により水持ちが悪い
ため、稲作には向かず、かわりに畑作や畜
産がさかんである。

都道府県の特徴を米や野菜、果物、畜産に分けてみました。日本は米が主食ですから、各地方で米の栽培が盛んです。その中でも北海道と新潟は多くの生産量を出しています。北海道は面積の大きさだけでなく稲の品種改良などにより生産量を増やしました。野菜や果物は地方の気候を利用したものが有名です。促成栽培の「なすやきゅうり」、抑制栽培の「キャベツや白菜」、山梨県甲府盆地の「ぶどうやもも」、青森県のりんごや和歌山県のみかんなどが有名です。畜産は、稲作や畑作に適さない地域で主に行われています。乳牛を使用する場合は、酪農といい牛乳からバターやチーズなどの乳製品を生産します。鹿児島県はシラス台地で水はけが悪いので、肉牛、豚、にわとり(ブロイラー)などの畜産が盛んです。

